

心の和がれ No.46

(2014/1～2)

p 01～01	将来を担う子に	p 03～03	お絵かきは雪ダルマ
p 01～02	懸命に生きる	p 03～04	病よ！そこどけ！
p 02～02	枯葉の風情を		
p 02～03	地域の恩恵		
p 03～03	反省しきり		

2014.01.05

・将来を担う子に

当地では穏やかな正月でした。自前で年末に剪定した松を背景に国旗を掲揚。これは日本国を愛する証の一つであります。昨今、国旗の掲揚も少なくなりました。核家族化が進み人間関係の絆が薄れた感があります。将来を担う子どもたちに学問や先人が築いてきた文化の伝承に道德教育などの基本教育を、家族の率先は勿論のこと、教育を携わる諸先生や地域の住民の協力と理解も必要不可

欠。◆「格に入て格を出ざる時はせばく、格に入ざる時は邪路^{じゃろ}にはしる。格に入格を出て、初^{はじめ}て自在^う得べし」松尾芭蕉“俳諧の心得”として述べた言葉で、「格」とは基本のこと。基本を繰り返して学び、身につけることが肝要でしょう。基本通りに出来るようになれば、そこからその子なりの個性や独創性が発揮される。基本に徹することは、土台を作ること、土台無くしては、どんな立派な高層ビルも建たない。人生もまた同様で、その土台を作るための導きを家族、先生、地域住民が真剣に支えることが必要ではなからうか。◆今年頂いた賀状にも相手の幸せ健康を願う言葉。中でも少なくなった両面手書きによる丁寧なる心遣いの言葉に心温まり人と人との「絆、おもてなし」日本の心が伝わってくる。文字による感動の重要性を再認識した正月であった。

2014.01.12

・

お休みをいただきました

2014.01.19

・懸命に生きる

12日の週刊記をお休みをいただきました。毎金曜日までに掲載文を脳にインプットするが、例年

より多くなった新年懇親会でアルコール漬け少々齢を感じるのか”すばら”が見受けられる。新年早々この状態ではいけません。巷では社会人が寒空の中、襟を立てて出勤。喜寿を迎えたが若人に負けぬよう、心して正月気分の生活を抜け出さなければいけません・・・反省。◆電子ノートを戴いた。今までミーティングにはA5サイズのノートを忘備録としていたが、パソコン間で作成資料の送受が可能であり利便性に富んでいる。ノート分類も10冊作成、会議録や雑記に旅先でのスケッチまで多に活用したく、真っ白なノートにどのような記録を留めることができるか有意義な物としたい。◆突然現れ即座に消えてしまうアイディアや思い出を書きとめ、良き案は日々を豊かにしてくれる。良き思い出は良き人生を育てる。明日はどのような楽しみが待っているだろう。喜寿という齢になり何だか躍動する気を感じるが・・・何故だろう。フランスの随筆家モンテーニュの言葉に「私は自分の人生をつくり上げるために努力してきた。それが私の職業であり、仕事であった」と。毎日を懸命に生きると言うことであろう。懸命に生きれば苦も昇華して楽となろう・・・反省しきり。

2014.01.26

・ 枯葉の風情を

大寒は過ぎたが寒さは続きます。男山八幡宮をそぞろ歩く、落ち葉を踏んで靴底から足に伝わってくる懐かしさは、舗装された路では失われてしまうと、かさかさと足元で語りかけてくるようだ。樹木と土草がまじりあった森の香りが身を包んでくれる。昔を懐かしむ静けさの中で北原白秋の

「焚火」の詩を思いおこす。「落ち葉焚けばおもしろ、^{くぬぎ}櫟の葉はふすふす。^{かや}萱の葉はちょろちょろ、松の枯葉はぱちぱち」また「くぬぎの燃ゆるにほひは、くぬぎの枯れし香りぞする。ただそれだけの事さへ、うれしや、冬はさみしや」◆昨今、小さな社の落ち葉にさえ腹立たしく小言交じりに話す人たちは、ちょろちょろ燃える焚火の暖かさをも、冷え切ってしまったのだろうか。せめて落ち葉が黄土色の色模様を繰り広げる風情に、和む心を通わせる余裕もほしいものです。

2014.02.02

・ 地域の恩恵

1月もアツという間に過ぎ去った。寒冷寒風、日本は冬の真っ最中だ。四季の移り変わりは、生活にめりはりと豊かな人生の年輪を刻む^{ばね}発条ともなるが、こう早くては高齢の身ではついて行けない。地域活動で日々人を^{うやま}敬う行動の中で自身の心が磨かれていくのだが、自分中心の生き方に流されがち、自身との格闘なくして成長はありえない。自分が磨かれればその輝きが周囲をも輝かせ、活動の原動力ともなろう。◆夏目漱石「草枕」の冒頭。「^ち智に^{はたら}働けば、^{かど}角が立つ、^{じょう}情に^{さお}棹させば流される、意地を通せば^{きゅうくつ}窮屈だ、^{とかく}兎角に人の世は住みにくい」と人の世で生きることの難しさを記し

ていることも踏まえて。この地に居住して44年、多くの人たちの恩恵を受けて今があることを忘れず、地域貢献に励みたい。

2014.02.09

・反省しきり

昨日は予報通りに積雪があったが、当地では屋根と庭に薄っすら、当日は老人会のイベントの予定があり、設備用品の搬入が危ぶまれたが幸いであった。また、風邪気味が5日ほど続いているが何とか開催できた。月に一度たのしみにしておられる方々のためにも、天に向かって感謝の一礼。4月の新年度までは書類作成で多忙、気分転換のために「心の和がれ」の更新とキーボードに向かっているが、頭が鮮明でなく集中できない、◆必ずやり遂げるとの、一点さえ揺るがなければ、体も動き知恵も湧く。大事なものは”やる気”への執念が心に燃えているか否かだ。「断じてやるぞ」と心に決めた瞬間、己心の壁は破れる。「さあやるぞ！！何んじゃ、これしき」「頭に智・心に炎・身には活」と胸中を躍動させ己心を覚醒させるのは、あくまで自分自身だ。毎夜、明日に実行することを楽しく確認し、起床とともに後ろを見るな「前へ前へ」これが当然である。と自覚はしているんだが◆高齢になると目標意識が低下するんだ！！。これは己心への甘えであり言い訳だ。逃げては成らんぞ齡104が目標、そんな甘えは捨っちまえ「馬鹿野郎」と自分に怒鳴ってやったよ。

2014.02.16

・お絵かきは雪ダルマ

何年振りであろうか我がガーデン「椿壽庭」の雪化粧は。娘が嫁ぐ前だから10年は久しい。豪雪に悩む地方には申し訳ないが、平日でもあり通園通学の子もたちの黄色い声が弾んで聞こえてくる。今日のお絵かきには雪だるまが主人公であろう。感性豊かな子ども達は色々なダルマを描き、先生から大きな三重丸をもらうに違いない。◆三重丸といえば、少年が友から変な絵と笑われた。しかし、先生は三重丸を書いてくれた。その子は三重丸でおおいに自信をつけ、絵を描くのが好きになり上手にもなった。他の教科の成績も上がり、そして、大きくなって有名な画家になった。◆周囲から評価されなくても、たった一人でも側で見守り、称えてくれる人がいれば自分の可能性を信じ大きく膨らむ。人は家族や周囲の人から褒めてもらった記憶が残っている。楽しいことは大きく膨らみいつまでも忘れえない。どんな些細なことでもいい、頑張ったことに大きな三重丸を送りたい。

2014.02.23

・病よ！そこどけ！

「恐山」が18日に白内障の手術を受け、5日間通院と介護に務め日々の主夫の大役も解任され、「掃除機の行く先々に亭主おり」の生活で早朝ウォーキングも気温低下と「恐山」ペースメーカー埋込後の体調を考慮して休止中だが、これは拙生の逃げ口上に過ぎないだろう。◆「恐山」は苦悩

苦難に対して客観的な思考の持ち主でポジティブな生き方には感心する。この世に生存する限り、病気はある。ぱっと無くなるわけではない。でも病気ごときに、わが人生を邪魔されてたまるか。病気よ、そこどけて！姿勢だ。◆貧乏生活の我が家に於いては「他家は他家、我家は我家」で困窮生活も良しとし、苦難は無きに見えても大なり小なり万人にある。それをどのように捉えるかで人生も変わる。子どもには自立心をもたせ、大学や結婚式の援助はなし自力で。”親の財産は夫婦の和樂のために全て費やし子には残さぬ”が「恐山」の持論である。◆女性強しであるが、結婚して45年になるが1度たりとも言い争ったことがない。拙生の行動や小言に馬耳東風で微笑みで返すからであろう。喜怒哀楽の激しい拙生には過ぎたる女性だ。感謝・かんしゃ。

2014.01.～2014.02

E N D